



ふじのくにライフスタイルで生きる

FUJINOKUNI Life Style

誰もが夢を実現できる静岡県



大学生や社会人(職種さまざま)が本気で意見を交わす。現在活動しているチームは四つ。メンバーは随時募集中。



みしまびとが主催した、やりたいことを持っている人が集まって意見を出し合うワークショップ「タネを持ち寄る会」の風景。



対照的な二人。活動的な村上さんはスーパーマン。近松さんには人を優しく包み込む雰囲気がある。

ここには思いがけない 出会いと未来への 入口があります。

NPO法人みしまびと前事務局長
加和太建設(株)広報担当

村上 萌さん(右)

1988年伊豆の国市生まれ。三島の活性化を目指す「NPO法人みしまびと」の初代事務局長。その活動拠点「みしま未来研究所」は、廃園になった幼稚園を活用し2019年1月に開設。「地域の未来をつくる人をつくる」をテーマに、コワーキングスペース、多目的レンタルスペース、カフェ&バーの運営を行っている。

NPO法人みしまびと事務局長
みしま未来研究所スタッフ

近松 歩さん(左)

1984年三島市生まれ。2020年「NPO法人みしまびと」の事務局長を村上さんから引き継ぐ。

「私たち、年齢も四つ違うし、ここがなかったら出会ってないよね」と笑う村上萌さんと近松歩さん。「ここ」というのは、NPO法人「みしまびと」が2019年に地域の活性化拠点として開設した「みしま未来研究所」のことだ。

三島市で管楽器の修理師として働いていた村上さんは、「まちづくり」を学ぶために東京の大学へ。結婚後、南アフリカに約3年暮らしたことで社会への関心がより深まり、2018年、みしま未来研究所の開設を共同提案した加和太建設(株)(三島市)に入社した。同研究所の立ち上げから関わってきた“スーパーマン”だ。

一方の近松さんは、東京の大学を卒業後、地元三島で働く傍ら、「みしまびと」の活動にボランティアで参

加。研究所には「いい出会いがあるかな、くらの気持ちで来ましたが、関わるうちに楽しくなってしまう」と語る、いわば“巻き込まれた人”。

みしま未来研究所のテーマは「地域の未来をつくる人をつくる」。町のプラットフォームのような場所には、年齢も肩書も関係なく、さまざまな人が集まってくる。例えば、高校生が地元企業の社長と出会い、互いに影響を与え、未来の町を語る...そんな思いがけない出会いが日常的にある。「一歩足を踏み入れたら、自分が良い方向に進める出会いがあるかもしれない。そんな場所であり続けたいですね」と村上さん。思いがけず出会った対照的な二人が、思いを込めて育てる研究所は、夢を描き未来を創る人の入口だ。